

企業ニュース ジーエス・ユアサコーポレーション

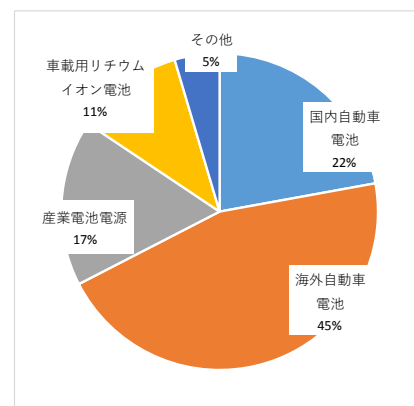
(東証1部: 6674) <https://www.gs-yuasa.com/jp>

作成者: 兵藤三郎

車載鉛蓄電池の大手メーカー

1895年、島津源蔵（島津製作所2代目社長）が日本で初めて鉛蓄電池を製造。1908年、商標「GS」使用開始。1917年、日本電池設立。2004年、ユアサコーポレーション（1918年、湯浅蓄電池製造として設立）と統合し、現社名となった。自動車用（二輪用含む）電池の国内大手メーカー。その他、産業用途や特殊用途の蓄電池も手掛ける。特殊用途としては、潜水艦や人工衛星、飛行機などへの納入実績がある。車載用のリチウムイオン電池は、主に三菱自（7211）向けのリチウムエナジージャパン（LEJ）と主にホンダ（7267）向けのブルーエナジー（BE）で展開している。LEJ、BEは合弁事業だが、マジョリティは当社が持つ、連結対象企業。2019年6月、トヨタ（7203）ともEV向け電池開発で協業することが報道された。

◇19.3期売上高構成比



(出所) ジーエス・ユアサコーポレーション
資料よりCAM作成

車載用リチウムイオン電池事業、投資先行期だが中期的には成長けん引役に

19.3期連結業績は、売上高が4,131億円、前期比1%増、営業利益が227億円、同3%増。車載用鉛蓄電池において鉛価格上昇分の売価転嫁が進んだことや、国内などで補修用需要が堅調に推移したことなどが業績をけん引した。PHVの拡販が進捗するものの、原材料高や先行コスト負担の残る車載用リチウムイオン電池事業での減益を補って、全体で増益を確保した。売上高、当期純利益は過去最高を更新した。

20.3期連結業績の会社計画は、売上高が4,300億円、同4%増、営業利益が200億円、同12%減。19.3期における鉛価格下落の影響を受けるが、販売数量増などにより増収を確保する。一方、人件費などの経費増やハンガリーにおけるリチウムイオン電池工場立ち上げ費用などにより、減益の計画。既存の車載リチウム事業でも能力増強投資を計画。BEではホンダ向けで80%程度の稼働状況だが、他社への販売を見込み新生産棟の建設を検討。同投資は、新中計で予定している車載用リチウムイオン電池事業向け約800億円の投資の一部。

[株価動向・投資判断]

株価はPERで14倍台と割高感のない水準。投資先行期だが、中期的には車載リチウム事業の収益貢献が期待できよう。トヨタとの協業も評価したい。

<6674 GSユアサ 業績: 日本基準>

[今期予想の配当金は発行会社予想]

	売上高	営業利益	経常利益	当期利益	1株利益	1株配当
	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	円	円
18.3	410,951 (14)	21,920 (▲ 5)	21,387 (▲ 5)	11,449 (▲ 6)	27.8	10.00
19.3	413,089 (1)	22,654 (3)	24,728 (16)	13,524 (18)	164.7	38.00
20.3 予	430,000 (4)	20,000 (▲ 12)	22,000 (▲ 11)	12,000 (▲ 11)	147.9	50.00

(注) 18年10月1日付で5株を1株に株式併合。19.3期の1株配当は、株式併合前の第2四半期末3円と株式併合後の期末35円の単純合計で表記。



[主要株価指標] (売買単位: 100株)

株価 (2019/7/12)	2,091 円
年初来高値 (高値日)	2,383 円 (19/1/17)
同 安値 (安値日)	1,833 円 (19/5/14)
予想 P E R (20.3 予)	14.1 倍
1株株主資本 (PBR算出用)	2,197.8 円
P B R	0.95 倍
予想配当利回り	2.39 %
(1株当たり配当金 50.00円)	
R O E (19.3)	7.6 %
発行済み株式数	8,271 万株